

## 創刊号からカレントまでのナショナルジオグラフィック誌にマルチメディアコンテンツを追加 National Geographic Virtual Library

センゲージラーニング株式会社

KINOLINE の 9 月号では National Geographic Magazine の創刊号から 1994 年までのすべての号を誌面イメージで提供するデジタルアーカイブ”National Geographic Magazine Archive”のリリースをご案内しましたが、このたび 1995 年からカレントの号までが追加され、さらに National Geographic Society の書籍、雑誌、ビデオ、画像、地図が加わり、協会の発行する機関紙とマルチメディアコンテンツを搭載する単一のプラットフォーム National Geographic Virtual Library としてアップグレードされました。

### 【全体の構成】

- ✓ National Geographic Magazine Archive, 1888-1994
- ✓ National Geographic Magazine Archive, 1995-Current with People, Animals and the World

### ◆視覚教育のための優れた教育用コンテンツが満載◆

National Geographic Magazine の主役は写真に代表されるイメージ資料です。毎号、多数の写真、イラスト、地図が掲載されます。自然や動物や人の動きの一瞬をとらえた写真は、それだけで見るものに驚きを与えます。また、その地図は、単に見ているだけで楽しく、地図に対する関心と呼び覚ましてくれます。さらに、ビデオや画像が加わることで、National Geographic Virtual Library は自然や環境に関する視覚教育のための総合的教材としてお使いいただくことができます。

#### ✓ ビデオ

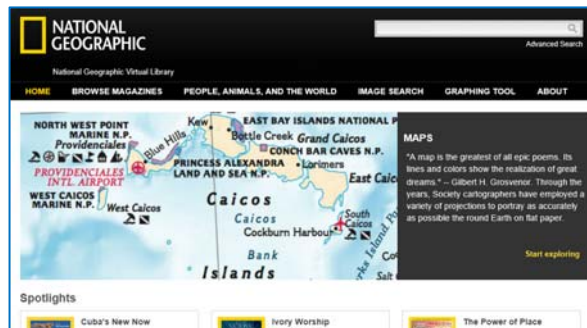
動物、環境、歴史、民族と文化、科学技術、旅行をテーマにした 325 本のビデオを搭載します。

#### ✓ 画像

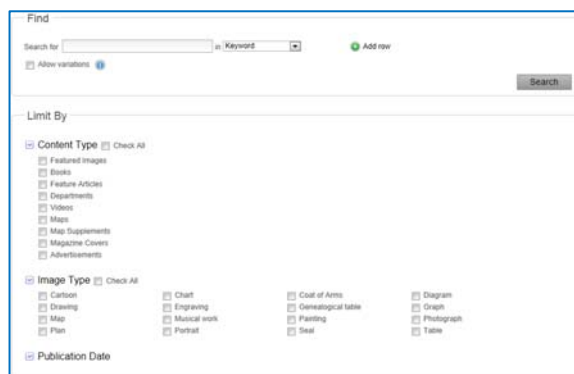
動物、環境、世界の民族と文化、科学、技術、旅行等に関する約 600 の画像が収録されます。教育目的(授業での利用、学生のレポート作成など)に限り、ダウンロードしてお使いいただくことができます。

#### ✓ 地図

都市地図、旅行ガイド用地図、探検用地図、行政地図、海底地図、気象地図、海底プレート地図、水や陸地利用の利図、人口地図など、約 650 のフルカラーの地図を搭載します。



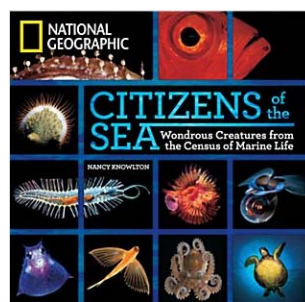
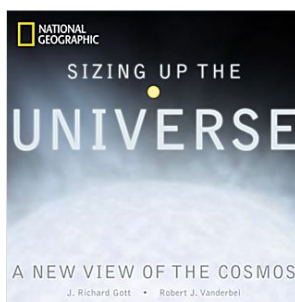
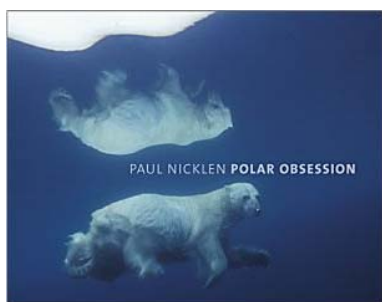
トップページ（基本検索画面）



詳細検索画面  
雑誌の記事欄、イメージ種類、発行期間  
で絞り込むことができます

## ✓ 書籍

動物、環境、歴史、写真、科学、旅行に焦点を当て、様々なテーマで編集された書籍(約 200 冊)を掲載します。極地の動物や環境の一瞬一瞬をカメラに収めた写真家ポール・ニックレン(Paul Nicklen)の”Polar Obsession”、宇宙の物体の大きさや物体間の距離など、宇宙の実際のサイズを視覚的に伝えるプリンストン大学の二人の教授による画期的な”Sizing Up the Universe: The Cosmos in Perspective”、海洋生物の驚くべき多様性を写真とテキストで描きつくしてみせた海洋学者ナンシー・ノールトン(Nancy Knowlton)の”Citizens of the Sea: Wondrous Creatures from the Census of Marine Life”など、National Geographic ならではの書籍を多数揃えています。



## ✓ National Geographic Traveler Magazine (2010 年以降の号を掲載します)

### ◆National Geographic Magazine の徹底した取材◆

National Geographic Magazine が他の雑誌と異なる点として、取材に長い時間を費やすことがしばしば指摘されます。通常、数ヵ月から数年かけて取材を行ないます。同誌のシニア・ライターのカシー・ニューマン(Cathy Newman)によれば、50 年前には取材先に赴く写真家が使える取材経費には上限がなく、取材陣は「記事にふさわしい写真が撮れるまで好きなだけ滞在して良い」と言われるのが普通でした。取材中一人の写真家が撮影する写真の数は 2 万枚から 6 万枚にのぼりますが、その中から雑誌に掲載されるのはわずか 10 枚に過ぎません。最近では取材期間も短縮されましたが、インターネットと SNS の普及によって商業ジャーナリズムが苦戦する中であって、「その瞬間にその場で」撮影した最高の写真を読者に提供するフォトジャーナリズムの精神は今も生き続けています。

National Geographic Magazine を愛読した作家の開高健は、「取材態勢の肉厚なこと、大自然を相手に、取材現場にへばりつくような克明な態度で人事を描き出すことなど、いい加減な原稿などひとつもなくて、みな鋭い視点を持っている。……記事のよさ、写真のよさ、文句なしに推薦できる、本当のリライアブル・マガジンといえるだろう」と、讚えています。

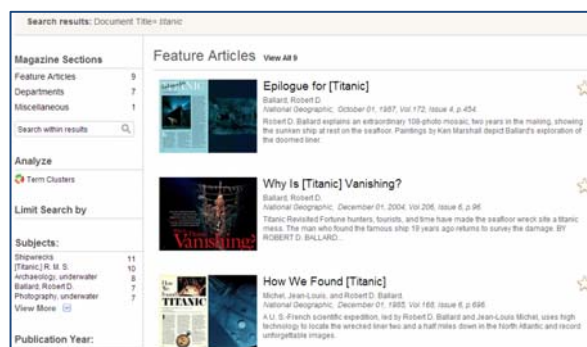
徹底した取材から生まれた珠玉の記事をお楽しみいただけます。

※カシー・ニューマン「受け継がれてゆく伝統」(『ナショナル ジオグラフィック 50 グレイテストフォトグラフ 傑作写真に秘められた物語』日経ナショナルジオグラフィック社)を参照。

※開高健の言葉は『世界の雑誌大研究』(講談社)より引用。



### 記事表示画面 (見開き 2 ページが表示されます)



### 検索結果表示画面

### ◆National Geographic Magazine の歴史は写真の歴史◆

National Geographic Magazine は写真をいち早く雑誌に取り入れた雑誌としても知られています。1905 年、急遽 11 ページを埋めなければならなかった編集長のギルバート・グロブナー (Gilbert Grosvenor) が、チベットのラサを撮影した写真を掲載することで急場を凌いだという逸話は、長く語り草となりました。1905 年 1 月号に掲載された写真は、初めて世界の人々にチベットの秘境を知らしめることになりました。

また、同誌の歴史はカラー写真の歴史と言われるほど、同時代のカラー写真の技法を積極的に取り入れています。カラー写真の技法を初めて採用する前、1910 年 11 月号に、日本と朝鮮を撮影した「カラー」写真が掲載されましたが、これはウィリアム・チャピン (William Wisner Chapin) が撮影したモノクロ写真に、チャピンのメモを参考に日本人絵師が彩色を施したものです。ところで、この時すでに、リュミエール兄弟が世界で初めてカラー写真の実用化に成功を収めていました (オートクローム)。オートクロームの技法を使ったカラー写真が同誌に掲載されたのは 1914 年 7 月号で、ガン (Ghent) の花壇を撮影したものです。1930 年代になると、コダックのカラーフィルム、コダクロームの実用化により、カラー写真は更なる進化を遂げます。画質が極めて良質で、動く被写体を撮影できるコダクロームは、National Geographic Magazine の写真を全く変えてしまいました。

写真の進化とともに歩んだ National Geographic Magazine は写真の歴史を研究するための格好の研究資料と言えます。

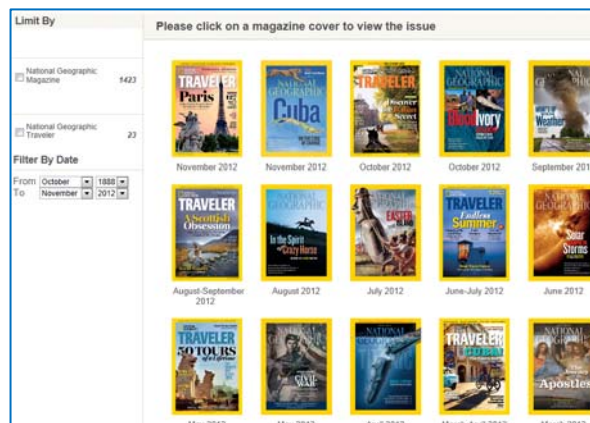
※”High Adventure: The Story of the National Geographic Society” (National Geographic Society, 2003) を参照。

### ◆近年、日本の学界で関心を集める科学イラストのパイオニア◆

National Geographic Magazine は協会の第二代会長のグラハム・ベルの時代から、画像 (イメージ) に重きをおいてきました。写真の他には、鳥、昆虫、魚、植物、微生物、恐竜などを正確に描くイラストが多数掲載されています。対象を正確に描写するイラストを通して科学に対する理解を深める手法はアメリカでは長い伝統があり、早くから専属イラストレーターをかかえて、優れたイラストを送り出してきた National Geographic Society は、スミソニアン博物館と並んで、科学イラストレーションの力を世に広める役割を果たしてきた代表的機関です。

同誌のイラストの歴史には日本人も足跡を残しています。村上順は 1920 年代から 40 年代にかけて日本人初の専属イラストレーターとして活躍し、自身が担当した 20 数本の特集の中で、魚、鳥、昆虫などのイラストを多数手掛けました。

近年ようやく日本でも、科学に対する理解を深める媒体としての科学イラストレーションの重要性が学界において認識されはじめ、科学系研究者と芸術系研究者を横断する形で研究会が組織されるに至りました。科学イラストの長い歴史を持つ National Geographic Magazine は、科学コミュニケーションの研究者を中心に、科学と芸術の横断を試みる最前線の研究者にとっての有益な資料となるでしょう。



号閲覧画面



## ◆極めて精緻な地図—戦争の前線でも利用◆

写真、画像と並んで地図が同誌の歴史で果たした役割も見逃せません。1915年にアルバート・バムステッド (Albert Bumstead) が最初の地図製作責任者 (Chief Cartographer) に就任して以来、地図製作は National Geographic Magazine を支える柱の一つです。精緻で、また見ているだけで楽しめる National Geographic の地図は、地図愛好者ならずとも魅了してきました。しかし、National Geographic の地図が重要なのは、戦争の場に代表される通り、実践的な役割を果たしたことです。

特に 20 世紀の二つの大戦において、National Geographic の地図は戦争の表舞台に生まれました。連合軍ノルマンディー上陸作戦が始まった 1944 年 6 月の直後の 7 月 1 日号に掲載された地図 "Germany and Its Approaches" は連合軍の作戦遂行の上で重要な役割を果たしました。この地図は、ドイツとその周辺地域における主要な道路、鉄道、運河を示し、1 インチ四方毎に地名が記された極めて精緻なものでした。米軍は地図の原本を協会から借用し、拡大複製した上で、約 2 万枚をトラック車両や救急車の運転手の便宜を図って道路の交差点に置きました。英国軍も前線用に 5 万部を複製しました。この地図を活用したのは前線の兵士だけではありません。連合軍最高司令官アイゼンハワー将軍は常に携行し、チャーチル首相は官邸の一室に掲げ、ルーズベルト大統領はホワイトハウスの一室でこの地図を見ながら戦線の進行を追っていたと言われています。1944 年 9 月のチャーチル・ルーズベルト会談では、両首脳が机の上のこの地図を書き込みで埋め尽くしたために、新しい地図が必要になったほどでした。この会談では、戦後のドイツの分割が仮合意に至りましたが、分割線が引かれたのもこの地図だったと言われています。

ところで、戦前、National Geographic Magazine を購読していた日本の軍人がいます。山本五十六です。米国駐在の経験もあり、米国事情に通じていた山本は 1918 年から 1930 年まで同誌を購読していました。長男の義正氏によれば、自宅の書棚には Magazine が並び、付録の地図も大切に保管されていました。付録の精緻な地図に、おそらく山本は目をみはったに違いありません。

National Geographic Magazine の地図は、地図の専門家だけでなく、軍人をはじめとする様々な領域の人々を魅了し、実践的に利用されました。軍事史研究にとっても第一級の資料と言えるでしょう。

※ National Geographic Magazine のアート・ダイレクター、ジュアン・ヴェラスコ氏 (Juan Velasco) のブログ「NATIONAL INFOGRAPHIC」の記事を参照。

<http://juanvelascoblog.com/2012/10/26/a-map-that-helped-reshape-the-world/>

山本五十六のエピソードは National Geographic Magazine 1999 年 4 月号より。

以下は National Geographic Society の歴史から地図に関わる重要な出来事を拾ったものです

- 1914 年: 第一次世界大戦の勃発が迫る中で、「新しいバルカン国家と中欧の地図 (Map of the New Balkan States and Central Europe)」を掲載 (8 月号)
- 1940 年: 「アメリカ合衆国南西部 (The Southwestern United States)」を掲載 (6 月号) — 多色刷りの地図で、地図製作部門が製作した地図の古典的事例
- 1941 年: ルーズベルト大統領に協会保有の地図一式を寄贈。以後、歴代大統領や政府高官に地図一式を寄贈することが慣例となる。
- 1941 年: 作戦支援の一環として、軍に地図を提供
- 1944 年: 第二次大戦末期、ノルマンディー上陸作戦後、連合軍、「ドイツとその近郊 (Germany and Its Approaches)」を利用
- 1946 年: 初めて見開き 2 ページの地図「インドとビルマ／インドの政治的下位区分 (India and Burma / Political Subdivisions of India)」を掲載 (4 月号)
- 1969 年: 地球側の月面と反対側の月面を描いた初の地図「地球の月 (The Earth's Moon)」を掲載 (2 月号)
- 1983 年: コンピュータで制作した初の地図「ヨーロッパの歴史: 主な転換点 (History of Europe: the Major Turning Points)」を掲載 (12 月号)
- 1988 年: エベレストの精緻な地図「エベレスト山 (Mount Everest)」を掲載 (11 月号)

※ National Geographic のサイト "Cartographic Milestones at the National Geographic Society" より

[http://blogs.ngm.com/blog\\_central/2011/02/cartographic-milestones-at-ngs.html](http://blogs.ngm.com/blog_central/2011/02/cartographic-milestones-at-ngs.html)

**◆雑誌の形態を取りつつも、保存性を追求◆**

著者と読者がともに専門家である学術専門誌と比べると、一般読者向けに発行される **National Geographic Magazine** は、専門性という観点からは見劣りするかも知れません。同誌はアメリカの病院の待合室、喫茶店、家庭でよく見かけるため、難しい科学や自然のテーマを一般向けに分かりやすく伝える軽い読み物と受け取られることがあります。科学啓蒙誌というポジションを考えれば、このイメージは決して間違いではありません。しかし、それは **National Geographic Magazine** の一面に過ぎません。そもそも、単なる軽い読みものであれば、120年以上も刊行が続いてこなかったでしょう。

同誌は創刊から1989年まで、一年を通じてページ数の通し番号が打たれていたことに見られる通り、合本して保存することを念頭に置いた編集方針が取られていました。また、この編集方針に相即するように、購読していた読者もバックナンバーを保存しようと考えていたことが、協会の資料室に保管された読者からの投書を分析した研究によっても明らかにされています。それによれば、バックナンバーを捨てられず、保管スペースがなく困っていることを伝える投書が多数残っています。軽い読み物、読み捨ての雑誌というイメージに反して、**National Geographic Magazine** が雑誌という形態を取りつつも、ライターや編集陣が制作に当たっては書籍が持つ保存性を追求し、読者もまた、そのようなものとして受け止めていたことが伺えます。

※**National Geographic Magazine** が合本して保存することを念頭に置いていたことについては、大谷勲「海、山、人、雑誌のなかに地球が見える」(『世界の雑誌大研究』所収)を参照。

※協会の資料室に保管されていた読者からの投書については、Stephanie L. Hawkins, "American Iconographic: National Geographic, Global Culture, and the Visual Imagination" (Univ. of Virginia Press, 2010)を参照。

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 電子商品営業部 (電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:[online@kinokuniya.co.jp](mailto:online@kinokuniya.co.jp)) までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaivo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。